

令和3年度・4年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実践



出水市立江内中学校

目次

I	はじめに	1
	1 校区及び学校の概要	
	2 生徒の実態	
II	研究の概要	2
	1 研究テーマ	2
	2 研究テーマ設定の理由	
	3 研究の目的	3
	4 研究仮説	
	5 研究の方向性	
	6 研究組織	
	7 研究の経過及び計画	4
III	研究の実際 (1年目の取組)	6
	1 租税教室	6
	2 令和3年度 夏休み税に関する作文・ポスター	8
	3 各教科・領域での取組	9
	4 研究授業：第3学年社会科「公民」学習指導案	11
	5 まとめ令和3年度3月3年生 租税に関する授業についてアンケート	17
	6 租税に関する授業について	18
IV	研究の実際 (2年目の取組)	20
	1 租税教室	20
	2 令和4年度 夏休み税に関する作文・ポスター	23
V	成果と課題	24
VI	おわりに	24

I はじめに

1 校区及び学校の概要

本校は、出水市の西部に位置し、南は国道3号線、北は不知火海に面する、小規模校である。平成30年4月より江内小学校と小中一貫校としてスタートしている。

校区は、干拓地を中心とした水田稲作、冷筋ヶ丘などを利用した柑橘類の栽培や畑作、畜産・養鶏等が盛んな純農村地帯である。また、自治会長や育成会長を中心として集落がまとまり、青少年育成や地域行事には積極的に取り組んでいる。

さらに、平成14年度から「江内おやじの会」と「愛のパトロール」が一緒になって新「おやじの会」が組織され、地域ぐるみで青少年を犯罪被害から守り、健全に育てていこうとする気風に溢れた地域である。

2 生徒の実態

本校は令和4年度、1年生10人、2年生14人、3年生15人、計39人の小規模校である。江内校区には保育園、小学校、中学校それぞれ1校（園）であるため、中学校まで同じ仲間や友達関係が変わりにくい環境にある。小・中一貫校であるために運動会や避難訓練、小学校6年生の中学校での授業など、様々な行事や交流の機会が多く、学期ごとに数回交流を行っている。

本校の生徒の状況については、素直で明るい生徒が多く、地域の行事等には積極的に参加する側面がある。また、授業や学校行事等に真剣に取り組み、課題を解決しようとする試みや努力を惜しまない姿など向上心があり、積極性のある生徒が多い。たとえば、ICTを活用した授業では、表現の仕方や、見やすさ、わかりやすさを創意工夫し、作成したものを率先して発表する様子が見られる。

しかし、生徒理解のための調査等を分析すると、自己肯定感、自主性が低く、自ら課題を見出すことが弱いことが分かった。

そこで、租税教室や租税についての授業では、租税に関する基本的な知識を習得することで、租税に対して興味・関心を持ち、そこから課題を見出させたい。また、課題を解決していく中で、「自分も役に立てる」、「自分にもできる」という租税の関わり方に気付かせていきたい。これらの授業を通して、税に関する興味・関心・理解を深め、将来の一納税者として社会に貢献しようとする生徒の育成に努めていきたい。

II 研究の概要

令和3年度～4年度 出水市立江内中学校 租税教育計画

1 研究テーマ

租税教育を通して、税に関する興味・関心・理解を深め、将来の納税者として、社会に貢献する生徒を育成するにはどうすればよいか。

2 研究テーマ設定の理由

(1) 現在の社会的な背景から

一昨年より続くコロナ禍での社会的・経済的な影響による生活様式の変化、地球温暖化による生活環境の急激な変化など、私たちを取り巻く環境は、大人だけでなく子どもたちまで大きく変化してきている。一方では、リサイクル社会や持続可能な社会に向けての取組や自然災害に伴うボランティア活動への積極的な参加など、有限な資源の活用や積極的アイデア、他者への思いやりに溢れた行動を行う機会も増えている。

しかし、社会のこれまでの動向を見ていくと、今後安心していられないことは推測できる。たとえば、少子高齢化による生産年齢人口の減少が益々深刻化してきており、働く労働者世代の年金制度や医療保険や介護制度など国民への負担が今後も大きくなり続け、財源の確保が現在よりも更に困難になることが予想される。

これらのことをふまえ、未来の社会の一員としての豊かな感性を育むことと租税教育との関連性は、これらの社会環境を考えると、今こそ子どもたちに確実になくてはならない資質であると考えられる。

(2) 本校の教育課題から

租税教育については、小学校でも「租税教室」を開いて学習してきているとともに、中学校でも夏休みの租税についての作文やポスター募集とそれに伴う事前の学習を社会科の授業で行っている。また、3年生を対象にした6月下旬の「租税教室」では、出水市の職員や税務署職員など身近な人材を活用して租税に対してより興味・関心をもてるように工夫をしている。

租税についてはある程度学習してきており、教科書が無償で配られていることや消費税10%など知識の面では納得しているように感じる。しかし、実際はまだ身近なものとして捉えられていないように感じる点も多い。そこで、国民の義務でもある納税を通して、国の在り方や行政活動に関する関心を深めるとともに財政の中心的な財源である租税について、社会科の授業だけでなく、教育課程全般において考える機会をもつとともに、出水税務署の方々と連携して専門的に学ぶ機会を設け、より知識・理解を深め、関心をもってほしいことから「租税教育を通して、税に関する興味・関心・理解を深め、将来の納税者として、社会に貢献する生徒を育成するにはどうすればよいか。」という研究主題を設定した。

3 研究の目的

- (1) 租税に関わる学習を通して、税についての興味・関心を高める。
- (2) 租税に関わる学習を通して、正しい知識や理解を深めるとともに、勤労の尊さや人間関係形成の大切さを知り、他者への思いやりや感謝の気持ちで行動できる生徒を育成する。
- (3) 租税に関わる学習を通して、生徒の主体的な活動をより充実させるとともに、自ら社会に貢献しようとする態度と資質を育成する。

4 研究仮説

- (1) 身近な社会生活と租税との関連する学習を通して、命・人・ものやお金の尊さを考える機会を設定し、総合的な視野から租税教育を計画的に実施すれば、命・人・ものを大事にする生徒や租税感覚を育てることができるのではないかと。
- (2) 租税の意義や必要性を身近な社会と関連付けることで、他者への思いやりの気持ちを育み、感謝の気持ちで行動できる生徒を育てることができれば、納税意識を高めるとともに、夢や自己実現達成のために国や郷土に貢献しようとする態度が芽生えるのではないかと。

5 研究の方向性

(1) 租税教育の柱

- ア 租税教育を日頃の学校生活や身近な社会生活と関連付けて意識させる。
- イ 命・人・もののサポートや社会的なサービス等の財源のための納税であることを意識することによって、租税感覚を身に付けさせる。
- ウ 納税意識を持たせることで、勤労、奉仕の心を育て、郷土や社会に貢献しようとする姿勢や態度を身に付けさせる。
- エ 命・人・ものを大切に、他者への思いやりと感謝の心を育てる。

(2) 研究の領域

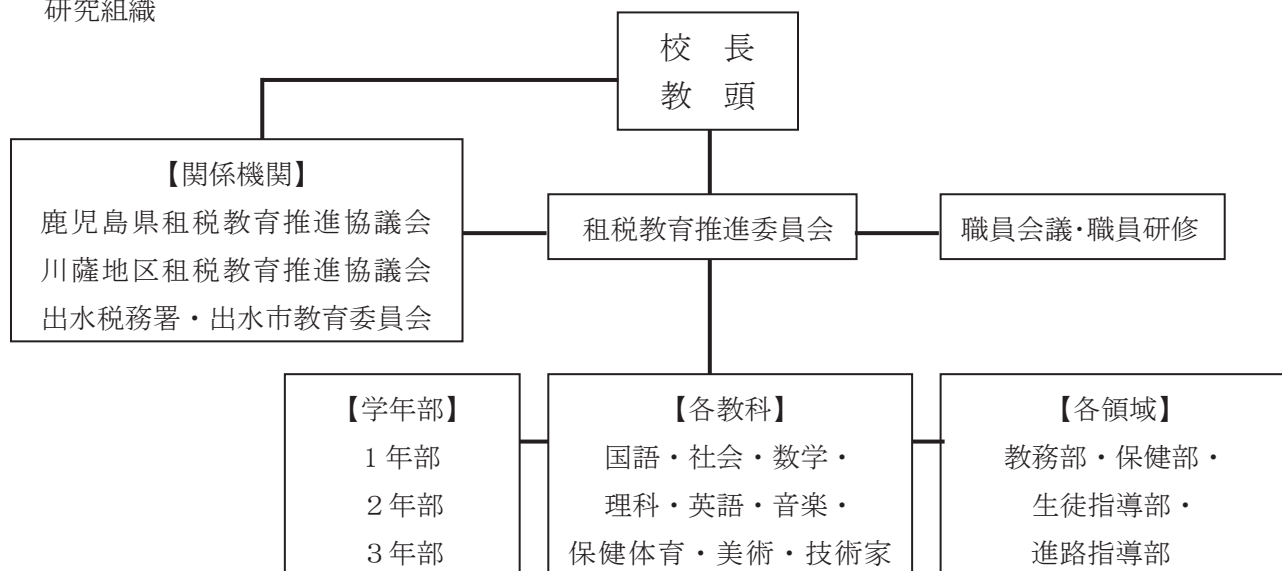
- ア 教育課程の中で、租税教育の視野に立った教育活動を展開する。
(教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間等)
- イ 日常の生活の中で、租税教育を意識、充実させるとともに、税に関しての作文やポスターなど主体的に取り組む租税教育を研究・実践する。

(3) 租税教育の到達目標

- ア 関心をもち知識・理解を深めることで税金や納税を意識する姿勢や態度を身に付けさせる。
- イ 税金が、命・人・もののサポートや社会サービスにとって重要な役割を果たしていることが理解できるようにする
- ウ 租税教育を通して、思いやりや感謝の気持ち、主体的に社会に貢献しようとする心を育てる。

6 研究組織

研究組織



7 研究の経過及び計画

① 令和3年度の取組〈1年目〉

令和2年度 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育研究について、税務署担当者と打ち合わせ (研究概要・日程調整 等)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育研究について、税務署担当者と打ち合わせ ・職員会議にて全職員に説明
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・税務署担当者と「租税教育推進」についての打合せ ・租税教育研究委嘱状交付，先進校の資料収集 ・大まかな概要作成
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・税務署担当者と「租税教育推進」についての打合せ ・3年生を対象に「租税教室」6/23(水) 14:15～15:05 講師：出水税務署：大浦大作さん
7月～ 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題についての検討 【社会科・国語科】税に関する作文 出品（1年～3年） 【美術科】 税に関する作品 出品 ・税に関する作品出品に向けて，1・2年「税に関する授業」（1時間） 【社会科】 ・全職員で租税教育に関する研修 2学期，11月実施の「租税ウィーク」に向けての取組 各学年「各教科」「道徳」「学活」等での取組について研修
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税ウィークの実施 各学年「各教科」「道徳」「学活」等での租税教育の取組 ・租税教育：3年公民「税に関する研究授業」の実施【社会科】 11/10(水) 14:15～15:05
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育：学期反省と今後の取組について
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての租税教育関係資料収集
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育：3年公民「税に関する授業」の実施【社会科】 3/10(金) 10:45～11:35 租税に関するアンケートの実施 税に関する教育の復習とまとめ，意見や感想

② 令和4年度の取組〈2年目〉

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修にて全職員に説明 ・令和4年度の研究計画の策定 ・生徒に向けて、租税に関するアンケートの実施
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校の資料収集 等
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で租税教育に関する研修 2学期, 11月実施の「租税ウィーク」に向けての取組 各学年「各教科」「道徳」「学活」等での取組について研修 ・税務署担当者と「租税教育推進」についての打合せ ・3年生を対象に「租税教室」実施 6/22(水) 14:15~15:05 事前の租税に関する事前アンケートの実施
7月～ 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題についての検討 【社会科・国語科】 税に関する作文 出品 (1年～3年) 【美術科】 税に関する作品 出品 ・税に関する作品出品に向けて, 1・2年「税に関する授業」(1時間) 実施 【社会科】
9月～ 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育研究について, 税務署担当者と打ち合わせ (11月下旬の発表に向けて, 租税教育研究冊子 等) ・活動のまとめ・資料作成・租税教育研究会発表準備
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税ウィークの実施 各学年「各教科」「道徳」「学活」等での租税教育の取組 ・租税教育研究での発表と報告 (11月下旬発表予定)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育: 学期反省と今後の取組について ・租税教育: 3年公民「税に関する授業」の実施【社会科】
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・租税教育: 3年公民「税に関する授業」の実施【社会科】 3月: 租税に関するアンケートの実施 税に関する教育の復習とまとめ, 意見や感想 ・委嘱結果のとりまとめ ・租税教育: 2年目の反省と今後の方向性の確認

Ⅲ 研究の実際（1年目の取組）

1 租税教室

令和3年 6月22日(水)

対 象: 3年生 9人

講 師: 出水税務署

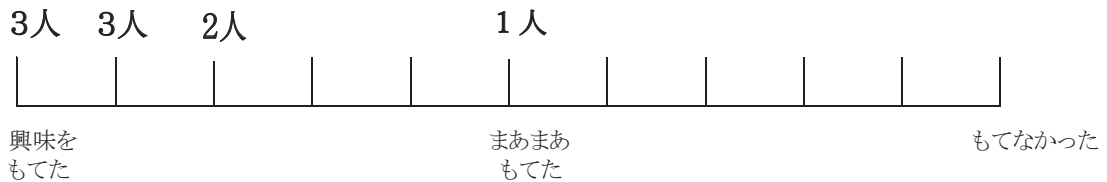
大浦 大作



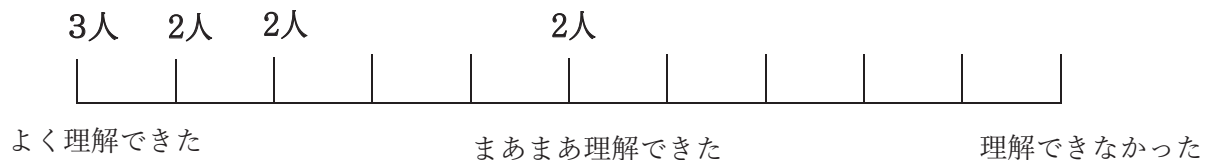
租税教室学習内容: 税金の歴史について(クイズ形式)
税金の種類やどのようなことに使われるかなど基礎的な知識

租税学習を終えて、どのような感想をもちましたか？

1 税に関して興味や関心をもつことができましたか。



2 税の本質を理解することができましたか。



3 学習してよかったことや役に立つことはなんですか。

- ・租税について何に使われているかがわかった。
- ・税の使い方、税を払うことの大切さを知れてよかった。
- ・国の税金の使い道を自分たちで考えるのが良かった。

- 税のことを知らないところをたくさん知れたこと。
- 消費税以外の住民税などの名前を知れたこと。
- いつも不満をもつことが多い、税の意味を改めて知りました。
- 「税は国と国民との約束」が響きました。
- 姉や親に教えられる。
- たくさんの税があり、10%と8%の物の違いが分かり、5%は食品関係だと初めてわかりました。
- 税の大切さがよくわかりました。
- 税の種類や何に使われているかが、初めて知ったものもあった。

4 租税学習を終えて、考えたことや感想を書きましょう。

- 「代表なくして課税なし」という言葉が印象に残った。
- 税のことを最初は知らなかったけれども、学習できたので税のことについて詳しくなれた。
- これから税金を払うことがたくさん増えていくと思うので税のことをしっかりと考えるようにしたい。
- 税について考える機会ができたので、とてもよかったです。また、クイズなども楽しかったです。犬税というのがあってびっくりしました。
- 税はもっと役にたって欲しいなと思いました。
- いろいろな税があるんだなと思いました。
- 国民にとってとても大切だということが改めて実感できた。
- 税はマイナスなことが多いのかなと思っていたけれども、今日学んでみて意外とプラスな面も多いことに気づいた。
- 大人になると、払わないといけないのでしっかり知っておいた方がいいと思いました。



2 令和3年度 夏休み税に関する作文・ポスター

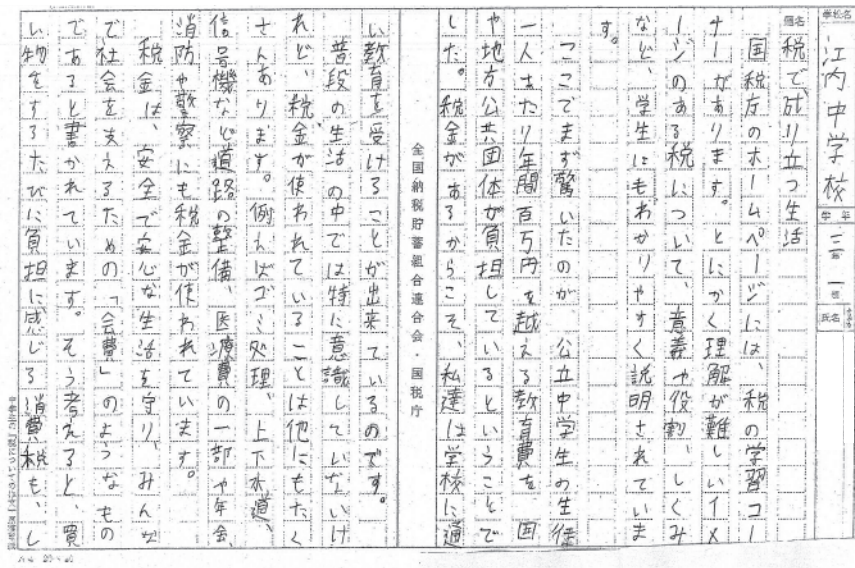
2021年度「税に関する作品」受賞

ポスター ～中学生～

- 地区租税教育推進協議会 優秀賞
- 鶴の町商工会会長賞

税についての作文 ～中学生～

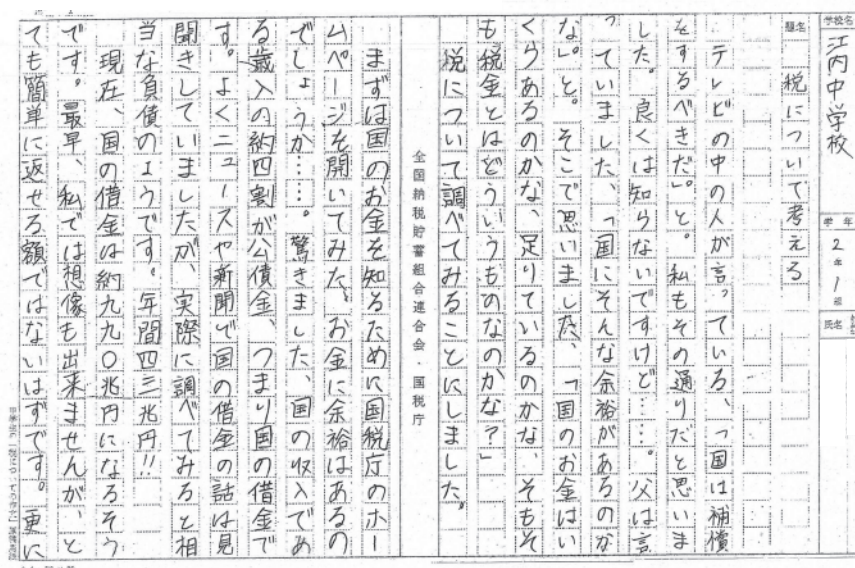
- 地区宅建業税務協議会会長賞
- 鶴の町商工会議所会長賞



題名「税で成り立つ生活」

主な内容

国税庁のホームページから、税金の中から高い教育費を負担していることや税金が社会を支えるための「会費」のようなもので役立っていること、将来への不安(コロナや感染症)コロナによるテレワークや学校でのタブレットに環境について記載。東京オリンピックや多くの災害復旧などを例に支え合うことの大切さについて。



題名「税について考える」

主な内容

テレビを見ていて父親が発した「国は補償するべきだ…」の言葉から、国には補償するお金の余裕があるのか?と疑問に思い税金について調べて考えたことを記載。世の中、お金がかかることや国の借金が増え続けていくこと、自分たちの世代が税のしくみを勉強し、を見つけ出していけないといけないことなど。

3 各教科・領域での取組

1, 「租税ウィークでの取組」

年間を通して、租税に関わる項目を選定し、教材や題材に盛り込むとともに、11月に「租税ウィーク」を設けて実施。これは、11月の1週間の学習の中で、各学年「道徳」や「学活」で租税教育と結びつく教材を選定(8月の研修)し、実施するものである。

2, 実施内容 (一例)

1年生:「道徳」

教材名・内容項目:【だれもが気持ちよく過ごせる社会を目指して】

12 ごみ箱をもっと増やして C(10) 遵法精神, 公德心

ねらい : 街の中にごみ箱を増やすかどうかの話し合いを通して, 公德心について理解を深め, 誰もが気持ちよく生活できるよりよい社会の実現のために努めようとする態度を育てる。

視点 : 街の中にごみ箱をふやすべきかどうかの話し合いを通して, よりよい社会を築くためのルールやきまりについて多面的・多角的に考えている。(ごみ箱設置やごみ回収にも, 税金が使われていることにも触れる。)

1年生:「学活」

題材 わたしたちが「働く理由」

指導目標 : 働く目的や意義を考え, 興味・関心を高めるとともに, 働くことの重要性を理解する。(日本国憲法の国民の義務を思い出させるとともに「納税の義務」についても触れる。)

題材 10年後の社会と自分を考えよう。

指導目標 : 将来の夢や希望を意識し, 実現に向けての意欲をもつ(税金が様々な場面で利用されていることに触れる。)

2年生:「道徳」

教材名・内容項目:【勤労から得られるものとは】

23 「十年後の自分」から「現在の自分」にメッセージを伝えよう。 C(13) 勤労

ねらい : 「真の働き方」についてグループで話し合うことで, 勤労に対する考えを深め, 社会の中でよりよく生きる態度を育てる。

視点 : グループで話し合うことで, 勤労に対する考えを深め, 将来につながる現在の自分の在り方を考えている。(日本国憲法の国民の義務を思い出させるとともに「納税の義務」についても触れる。)

2年生:「学活」

題材 人が「働く理由」
指導目標 : 働く意義を考え、職業への興味・関心を高める。(日本国憲法の国民の義務を思い出させるとともに「納税の義務」についても触れる。)

題材 ともに支え合う「協働」の社会
指導目標 : 協働し合う社会とはどんな社会のことか話し合う。(税金の種類や税金が様々な場面で利用されていることに触れる。)

3年生:「道徳」

教材名・内容項目:【将来の自分を見つめて】

15 好きな仕事か安定か悩んでいる C(13) 勤労

ねらい : 職業選択に関する様々な立場からの意見について考え、勤労の尊さや意義を理解するとともに将来の生き方について考えを深め、充実した生き方を追求し実現しようとする心情を育てる。

視点 : 職業選択に関する様々な立場からの意見について、グループでの意見交換を通して広い視野から多面的・多角的に自分の考えを深めている。(職業選択とともに、税金が様々な場面で利用されていることにも触れる。)

3年生:「学活」

題材 社会を支える一員として
指導目標 : 地域社会での役割を考える。(日本国憲法の国民の義務を思い出させるとともに「納税の義務」についても触れる。)

題材 あなたの「働く理由」って？
指導目標 : 職業を様々な点から考える。(職業について考えるとともに、税金の種類や税金が様々な場面で利用されていることに触れる。)

4 研究授業での取組（第3学年社会科「公民」学習指導案）

日 時: 令和3年11月10日(水)5校時
対 象 : 3 年 1 組 1 0 人
指 導 者 : 教 諭 網 屋 秀 之

1 単元名 第4章 私たちの暮らしと経済 第4節 財政と国民の福祉

「1 私たちの生活と財政」(東京書籍p162～p163)

2 単元の考察

本単元は、経済分野の「財政と国民の福祉」を題材にし、国民の福祉にとって、なぜ財政が重要なのかを考える単元である。生徒にとって身近な「家計(消費活動)」や「企業(生産活動)」,さらにもう一つの経済主体である「政府(財政活動)」について、日本の財政のあらましや政府の役割,社会保障について取り上げている。

本校では、3年生を中心に、毎年6月に講師を招聘して「租税教室」を開催している。小学校でも6年生を対象に毎年「租税教室」が行われている。また、毎年夏休みの課題として「税金について」の作文を提出,税に関するコンクールに応募することや税に関するポスター制作など,租税に関しては、なじみがあるとともにある程度の知識は持っているものと思われる。令和3年度の「租税教室」では、出水税務署を講師に租税の歴史や種類などクイズ形式で講義があり基礎的なことを学習した。感想の中にも税金の大切さや税金の種類の多さに驚いたことやもし、税金がなかった時の公共サービスについて書かれているものも多く見られた。

今回の授業の中で、税金は公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分かち合うことが必要である。このため税は「社会の会費のようなもの」であると言えることを理解させたい。また税の公平とは、税を負担能力に応じて分かち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解するとともに、等しい負担能力のある人(経済力が同じ人)は等しい負担をするという考え方(消費税など)、負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方(所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み(累進税率))があることにも気づかせていきたい。

既習事項も活用しながら、経済活動における個人の権利と義務、責任について深く追究させることにした。併せて、経済を動かす要素「消費、市場のしくみ、生産と流通、会社の組織と運営、金融」などの関係性、関連性を探らせながら経済の流れを理解させるとともに、家計や企業、政府、さらには貯蓄、貨幣、価格等についても、その役割や仕組みについて系統的な理解を図っていきたい。

3 生徒の実態

(1) 授業の様子から

本学級は、男女間の仲も良く、平素の授業においても他者の意見を尊重しつつ自分の思いや考えを自主的に発表するなど、支持的風土が構築されている。しかしながら、興味・関心を抱いたことに関しては、何事にも意欲的、積極的に取り組むものの、興味・関心の低いことに関しては、消極的で活気も見られず、理解も浅い傾向が見られる。「公民的分野」に関しては、比較的興味・関心が高く、授業の導入時に取り組んでいる「今日の時事問題クイズ」では、積極的に参加し、授業にも集中して取り組んでいる。世の中の動きや日本を始めとする世界の動きには、高い興味・関心を抱き、様々な情報を求めていることがわかる。一方で、積極的に発表するなど意欲的に取り組む生徒と活動に対して消極的な生徒の二極化が見られる。班編成を工夫したり、双方向的な学び合いの場を

意図的に設けたりするなどして授業の活性化を図り、思考力を高めさせたい。

(2) 事前のアンケート結果から

公民アンケート（結果）

（令和3年11月1日実施；3年生10人）

※ これは、テストではありません。素直に質問に答えてください。また、選択肢はあてはまるものに○をつけてください。

〈学習活動に関する調査〉

1 あなたは、公民という科目は好きなほうですか？それとも嫌いなほうですか？

○をつけて下さい。



2 1で「大好き」「好き」と答えた人に聞きます。その理由を簡単に教えて下さい。

・おもしろいから

3 1で「嫌い」「大嫌い」と答えた人に聞きます。その理由を簡単に教えて下さい。

・難しい ・複雑で難しいから

4 公民の学習は、将来役に立つと思いますか。はい（9人） どちらでもない（0人） いいえ（1人）

5 経済の学習に興味がある（3人） どちらでもない（4人） ない（3人）

6 小学校や6月の中学校での租税教室は、今後の生活に役立つと思いますか。

はい（7人） どちらでもない（3人） いいえ（0人）

7 今まで、あなたが租税教室で学んだことは何ですか。なんでもいいので書いて下さい。

・税の使われ方（使い道） ・税の種類 ・税を納める理由 ・公債金が多いこと

8 次のニュースを読んで次の問いに答えなさい。あなたはどのように考えますか。

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。ところが、火事が起こっているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうちに、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。結局、Aさんの家は全焼しました。

(1) 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。

- ・税を払っていなかったから（納めていなかったから）。 ・Bさんはお金を支払ったから。
- ・Aさんは貧しくて、Bさんは裕福だったから。消防車の出動には高いお金がかかるから。
- ・Aは逃げて安全だったけれども、Bは逃げることができなくて救助が必要だったから。
- ・Aさんの家が悪く、Bさんが被害者だったから。Bさんは、被害を受けた側だったから。
- ・Aさんは自分の火元の確認不足などの個人的なものだから。Bさんは他の人からの火事だから。
- ・Aさんに恨みがあったから。 ・他人に迷惑なときだけ出動した。

(2) あなたはこのニュースについて、どのように考えますか。

- ・アメリカのその州での法律があるので、それにのっとっていけば良いと思う。
- ・ひどい。 ・不公平だ。 ・ひどいです。しかも放置するなんてやばいです。
- ・平等に仕事を行って欲しい。 ・差別。消防隊は国民のために働くから。
- ・Aさんの家も消火活動をした方がいいと思った。

〈 考 察 〉

アンケートの問1～4の結果、公民の教科＝覚える教科＝嫌いという生徒が2人いる。公民は地理・歴史以上に生活に密着した教科と思われるが、「覚えなければならない」「難しい」という概念が先にきてしまい負担に感じている生徒が多い。確かに漢字や言葉など聴き慣れない言葉や漢字があり難しいことが多い。先に述べたように、授業でもニュースの言葉やキーワードなど解説することで、なんとか「社会」を身近に感じてもらおうと努力している。

今回、過去の租税教室を踏まえた上で、アンケート問5～8を調査。結果、租税教室は今後の生活に役立つ上に「税金の必要性」や「税金をどうして納めないといけないのか」「自分の身の回りの様々な税金の種類がある」など、過去の租税教室により、税金の種類や必要性などほとんどの生徒が理解していると思われる。

問8の問いに関しては、「租税教育の事例集(中学校版)～租税教育の充実に向けて～(租税教育推進関係省庁等協議会)」からの抜粋である。アンケートを記入させる際に教師側は、租税に関する話題には一切触れずに考えさせてみた。この記事は実際に起こったことをもとに作成しているが、正解は「Aさんは消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Bさんは払っていたから。」である。アンケートの中で租税に関しての問いがあるので「税金関係かな」と考えた生徒が3人。このニュースに関してのあなたの考えでは「ひどい」「不公平だ」「差別」と考える生徒がほとんどで、「アメリカの州ごとに法律がありそれに従っているだけ」と考える生徒が1人いる。これらの結果から考え方によっては、

- ・ 日本では、消防活動の費用は無料である。
- ・ 日本では消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われ、国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合って分担している。
- ・ 憲法には納税の義務がある。

ことを理解していると思われる。

この結果をもとに、授業の導入で取り扱い本時の活動につなげていきたいと思う。また、以下の日本以外のアメリカのことも触れて、国によって税金の在り方が違うことなど含め、考えを深めていきたいと思う。

- ・ アメリカテネシー州サウスフルトン市では、消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要がある。
- ・ 市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方。

(3) 指導に当たっての留意点

① 社会科教育の視点から

- ア 経済活動に関する身近な話題やニュースを取り上げ、遠くで起こっている事象と自分たちの生活との関係性に焦点を当てることにより、学習に対する興味・関心を高めさせ、学習目標の共有化を図る。
- イ 自分たちにも起こりうるや身近な場面を設定し、どのような判断・行動が必要なのか具体的に考えさせることにより、思考力・判断力・表現力を高めさせる。
- ウ 様々な資料を提示し、自分の判断材料に適した資料、判断の根拠となる資料を選択させることにより、情報収集能力、資料活用能力を培う。

② 人権教育の視点から

- ア 個での学習と班での学習の場面を大切にし、一人一人に基礎・基本の定着を図る。
- イ 意見交換や発言を大切にし、班での学習を通して支持的風土を醸成する。

③ 生徒の実態から

- ア 「わかる授業」「楽しい授業」を展開し、基礎的、基本的事項の定着を図る。
- イ 自己内対話を大切に「考える授業」を展開し、思考・判断力・及び資料活用能力を育成する。

4 単元の目標

- (1) 社会資本の整備, 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化, 消費者の保護について, それらの意義を理解する。また、財政及び租税の意義, 国民の納税の義務について理解する。
(知識及び技能)
- (2) 対立と合意, 効率と公正, 分業と交換, 希少性などに着目し, 市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して, 国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現する。対立と合意, 効率と公正, 分業と交換, 希少性などに着目し, 財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し, 表現する。
(思考力・判断力・表現力)
- (3) 国民の生活と政府の役割について, 現代社会に見られる課題の解決に向けた学習を通して, 自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み, 主体的に社会に関わろうとする態度を養う。
(主体的に学習に取り組む態度)

5 単元の目標(全4時間)

主な学習目標と学習内容	評価規準		
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1 私たちの生活と財政【本時】 ・ 私たちが納める税金の種類や仕組みについて, 理解する。 ・ 公正の観点から税金の負担について考察する。 ・財政の仕組み ・さまざまな税金 ・税金の公平性	・ 私たちが日常生活の中で納めている税金について理解している。(ポストテスト)	・ 憲法で, 国民に納税の義務がある理由について, 税金の役割に着目して考察し, 表現している。(ワークシート)	
・ 身近な社会資本や公共サービスについて調べ, 政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。 ・ 政府の財政政策と景気との関係について, 公共投資や民間企業と関連付けながら考察し, 表現する。 2 財政の役割と課題 ・市場経済と政府 ・財政政策 ・公債の発行 ・これからの財政	・ 公共サービスは, どこがどのように提供しているか, 本文から読み取る学習を通して, 理解している。(ポストテスト)	・ 政府の財政政策と景気との関係について, 公共投資や民間企業と関連付けながら考察し, 表現している。(ワークシート)	
3 社会保障の仕組み ・ 我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。 ・ 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで, これからの社会保障制度について, 持続可能性の観点から考察し, 表現する。 ・社会保障の役割とおこり ・日本の社会保障の四つの柱	・ 私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。(ワークシート)	・ 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで, これからの社会保障制度について, 持続可能性の観点から考察し, 表現している。(ワークシート)	
・ 少子高齢化の財政への影響について理解している。 ・ 少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を, 増税の影響に着目して考察し, 表現する。 4 少子高齢化と財政 ・少子高齢化と社会保障 ・社会保険の課題 ・福祉社会の実現に向けて	・ 現役世代が納める保険料の負担が大きくなっていく理由について理解している。(ワークシート)	・ 社会保障制度の充実と経済成長との両立が難しい理由を増税の影響に着目して考察している。(ワークシート)	・ 国民の生活と政府の役割について, 現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み, 主体的に社会に関わろうとしている。 (観察)

6 本時の実際(1/4)

(1) 主題 私たちの生活と財政

(2) 本時の目標

ア 私たちが納める税金の種類や仕組みについて、理解することができる。(知識及び技能)

イ 公正の観点から税金の負担について考察し、説明することができる。(思考力・判断力・表現力)

(3) 授業づくりの視点

ア 生徒の意欲・主体性を引き出す学習課題の設定

イ 多面的・多角的な見方・考え方を育む学びあいの場の設定

ウ 獲得した知識・技能を活用する場の設定

(4) 本時

過程	主な学習活動と生徒の考え	時間	教師の具体的な働きかけ
導入	1 アンケートの結果を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 学習課題： 国のお金はどのように集められ、どのように使われているのだろうか。	7分	・アンケートの問いに関する生徒の意見を聞くために、解答を発表する。 ・租税教室の様子を写真を見ながら振り返る。
展開	3 政府の財政について予想する。 発問1： 国や地方公共団体はどこから収入を得て、どのように支出しているのだろうか。 〈生徒の反応〉 ・主な収入源は税金。国や地方公共団体のために支出している。国民のために公共サービスとして支出している。	8分	・どのくらいのお金が国に使われているのかを予想させる。 ・政府の歳入や歳出について確認させるために、「わたしたちの税」を活用する。 ・歳出について特に何に使われるのかを確認する。
展開	4 政府の歳入、歳出について「私たちの税」をもとに確認する。 5 税金の種類や仕組みについて知る。 6 各国の税制について確認する。 発問2： 日・米・英・仏などの主な国の税収は、直接税と間接税どちらが多いだろうか。 〈生徒の反応〉 ・間接税が多い。アメリカは直接税が多い。英・独・仏は直接税と間接税が約半分ずつ。日本は直接税が多い。	10分	・直接税、間接税、国税、地方税などに分類するために、所得税など提示する。 ・消費税の流れについて説明する。 ・教科書の資料4や資料5をもとに、気づいたことを発表させる。 ・日本の税制度の特色や累進課税制度や逆進性について説明する。
展開	7 税金の公平性について自分の考えをまとめ、発表する。 発問3： みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税収が足りません。さて、どのように課税したら良いだろうか。 〈生徒の反応〉 ・お金をたくさん持っている人からたくさん納めるから累進課税に賛成。高所得者ほど税金を多く納めた方が良い。平等にみんなから納める間接税に賛成。	20分	・思考を深め、お互いの考えを共有するために、ロイロノートを活用させる。 ・どのように課税したら良いのか、個人で考えさせる。【G個】 ・個人で考えた結果をグループで考えさせ理由も考えるために、グループごとに発表する。【G協】 ・直接税と間接税の負担感の違いを考えさせるとともに、様々な税の組み合わせにより公平性が保たれることに注目させる。 ・公平性を保つためには、一つの方法だけでなく、複数の考え方があることに気づかせる。

終 末	<p>8 授業の中用語を使い、ワークシートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>直接税や間接税など様々なところから税金という形で、国民が公平に納めることができるように考えられており、主に社会保障費など、国民の生活を保障するようなことに支出している。</p> </div> <p>9 安定した生活を送るために、政府はどのようなことをしているのか予想する。</p>	5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りををするためにワークシートに記入する。 ・文章化できない生徒には、キーワードとなる語句をヒントとして与え、説明ができるよう補助する。 ・次時「財政の役割と課題」を予想させながら、次時の学習への関心を高めさせる。
--------	--	--------	---

(5) 評価

- ① 私たちが納める税金の種類や仕組みについて、理解することができたか。(知識及び技能)
- ② 公正の観点から税金の負担について考察し、説明することができたか。(思考力・判断力・表現力)

7 板書計画

国のお金はどのように集められ、どのように使われているのでしょうか。

◎財政のしくみ

国や地方公共団体の経済活動＝**財政**
 国の**予算** →1年間の政府の**収入(歳入)**
支出(歳出)に関する計画

◎さまざまな税金

国会や地方議会が種類や対象を決めて法律に
 基づき課す

国 税⇒国に治める税
地方税⇒地方公共団体に納める税
 納税者と担税者が同じ税金⇒ **直接税**
 納税者と担税者が異なる税金⇒ **間接税**

	国 税	地方 税
直接税	所得税・法人税・相続税など	道府県民税・市町村民税・自動車税など
間接税	消費税・酒税・たばこ税など	地方消費税・入湯税 道府県たばこ税 など

◎税金の公平性

税金は、国民間で公平に負担して納める必要がある。
 間接税(消費税など)
 → 収入に関係なく、同じ金額を負担する
問題点:所得が低いほど、所得に占める税金の割合が高い。
 直接税(所得税など)
 → 所得が高い人ほど高い税率である。**(累進課税)**

まとめ

直接税や間接税など様々なところから税金という形で、国民が公平に納めることができるように考えられており、主に社会保障費など、国民の生活を保障するようなことに支出している。

ワークシート
 第4年私たちの暮らしと経済 4節 財政と国民の福祉
 1 私たちの生活と財政 (教科書 P162～P163)

◎ 財政のしくみ

国や地方公共団体はどこから収入を得て、どのように支出しているのだろうか。

考え:

- ・国や地方公共団体の経済活動＝(①)
- ・国の(②) →1年間の政府の**収入(歳入)**、**支出(歳出)**に関する計画
- ・(③) で審議・議決

◎さまざまな税金

日・米・英・仏などの主な国の税収は、直接税と間接税どちらが多いだろうか。

考え:

- ・国会や地方議会が種類や対象を決めて法律にちとづき課す
- ・(④) ⇒国に治める税
- ・(⑤) ⇒地方公共団体に納める税
- ・納税者と担税者が同じ税金⇒ (⑥)
- ・納税者と担税者が異なる税金⇒ (⑦)

	④()	⑤()
⑥()	所得税・法人税・相続税など	道府県民税・市町村民税・自動車税など
⑦()	消費税・酒税・たばこ税など	地方消費税・入湯税 道府県たばこ税 など

◎税金の公平性

みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税金が足りません。さて、どのように課税したら良いだろうか。

考え:

税金は、国民間で(①))に負担して納める必要がある。

○間接税(消費税など)
→ ②

問題点:③

○直接税(所得税など)
→ ④

まとめ

5 まとめ 令和3年度3月 3年生 租税に関する授業についてアンケート
(R4.3.10(金)実施, 実施人数: 中学3年生10人)
3年 名前

1 あなたは、税について興味・関心はありますか。

ある (2) 少しはある (6) あまりない (1) 全くない (1)

2 あなたは、税について家庭で話をしたことがありますか。

ある (2) 少しはある (3) あまりない (4) 全くない (1)

3 あなたは税に関するニュースに注目しますか。

する (1) 少しする (4) あまりしない (3) 全くしない (2)

4 あなたは、税を納めることについてどのように思いますか。

当然おさめるべき (7) 仕方ないが納めるべき (2) 納める必要はない (0)

納めても納めなくてもいいのでは (0) 分からない (1)

5 税金が役に立っていると感じたことはありますか。

ある (6) 少しはある (3) あまりない (1) 全くない

それはどんな時ですか？

・学校の授業 (3) ・医療 (4) ・相続 (1) ・救急車などがタダ (2)
・道路の整備 (3) ・公共のもの (1)

6 あなたは税について学ぶ必要はあると思いますか。

思う (6) 少しは思う (2) あまり思わない (1) 全く思わない (1)

6 租税に関する授業について (R4.3.10(金)実施, 実施人数: 中学3年生10人)

～ 令和3年度 3年生のアンケートまとめ ～

1 財政難で新しく課税することになりました。新しい税金を課税したいと思います。新しい税金名とどのような税金か書いて下さい。

・救税

(世界中のどこかに多くの人々が貧困や飢餓, 病気などで苦しんでおり, 苦しんでいない人々もいるため世界を平等にするためにはみんなで支え合うことが大切だから)

- ・路上駐車税 ・カジノ税 ・CO²税
- ・住居税(住んでいる場所(住居)により変わる税)
- ・ビニール袋使用税
- ・罪税(罪を犯したらその都度高い税金を支払う)
- ・公共トイレ使用税
- ・パチンコ税やギャンブル税(遊ぶ料金+税金)
- ・暴力税

2 今, 税金は政府の収入になり, 社会保障や公事業に支出されています。この支出のために国民は公正・公平に分担して納める必要があります。皆さんだったら国民から納めてもらうにはどのような方法が良いと思いますか。自由に書いて下さい。

- ・全国民。年払いで同じ税金を支払えば良い。
- ・銀行で回収し, 支払いはATMで。
- ・期限内に払わなかったら督促状を送る。
- ・みんなの給料や品物の料金を一緒にする。
- ・請求書を国民全員に配る。
- ・月1回市役所に集まって税を納める。
- ・国民に税金帳をつけることを義務づける。
- ・宝くじのようにして5%返金。

3 もし, あなただったら税金をどのような政策に使いますか。具体的に書いて下さい。

- ・世界中の貧困や飢餓, 病気などで困っている人々を助けるために使う。
- ・ユニセフとかの寄付を税金に変えれば良い(3) ・SDGS
- ・医療費(2) ・大学の費用軽減 ・子供たちのための費用(2)
- ・ウクライナ(2) ・公共施設(老朽化) ・公務員の給料を上げる
- ・保育園の設置 ・長期入院をしている人 ・公共の物(2)
- ・ホームレスの人達 ・医療従事者への給付金 ・所得が低い家庭に。

4 今年度、租税教室を始め、租税に関して公民や学活や道徳で学習してきました。学習してきたことも含めて租税に関して意見や感想を書きなさい。

- ・ 去年と比べて税金について深く知ることができたと思います。小学生の頃から道路を整備している人達を見て、私達が納めている税金が使われているとは思っていませんでした。病院に行ったときにも税金が使われているので「命のために」と思うと税金はとても大切なものだと思います。本当にこの1年で税金に対する考えが変わりました。これから税金納める場面が多く出てくると思いますが、私達が生きるための大切なことだと思いながら納めるようにしていきたいです。
- ・ 税金は多少高くても、その分、私達の暮らしの質も上がっているのだから税金を納めていこうと思えました。税金を積極的に納めていきたいと思っています。
- ・ 税金は必要だと思いました。いろいろな所から税金が集められているのには驚きました。

- ・ 税金のことについてあまり知らなかったけれども、租税教室などで税のことについて学習して、税の種類や税の使い道などいろいろ詳しく知ることができました。大人になって、きちんと税を納めていきたいです。
- ・ 初めは「税金なんて何のためにあるのだろうか?」とか「必要ないのではないか?」と思っていました。「税金が8%から10%に上がって意味がわからない」と思っていたけれども、税についての授業をしてきて、何に税金を使っているのかわかりました。
- ・ 税に関する授業があったおかげで、税について少し興味が持てるようになりました。税の使われ方、税の納め方などいろいろ知ることができました。また、税の種類なども知ることができました。これから大人になるにつれ、税に関わることが多くなると思います。租税教室や税金について学習してきたことを忘れずに覚えておきたいです。
- ・ 租税について学んできて、税について知らなかったことがたくさん知ることができました。税の種類や使われ方は、学習する前は知らなかったけれども学習することで数種類以上あることや税によって違うことがわかりました。
- ・ 税金について学ぶことができてよかったです。世界と比べると日本の税率は低い種類が多いことにびっくりしました。日本は少子高齢化がすすんでいるので、これからの世代に負担がかかるかもしれないので、税のかけ方や税の種類について考えていった方が良いのではないかと思います。「日本の税のしくみは世界よりも難しいのでは?」と思ったけれども、税の使い道を考えるためには、国民全員が税について学ぶべきだと思います。税金のおかげで教科書など無料で配布されたり、小・中学校に通うことができたりするなど、安定した暮らしを送ることができるので、感謝するとともに将来しっかり納税していきたいと考えるようになりました。
- ・ 以前より税金について詳しく学習することができました。税金の種類やどういうところに税金がかけられているのかわかりました。また日本は国債も多く抱えていて、これから先ももっと多くなることが予想されるので、どのような政策をするのかニュースなどを見て、社会のできごとについて積極的に関わっていきたいです。世界には、消費税など、税金は高いけれども高福祉を受けている国もあることがわかりました。

【考察】

令和3年度3年生は、過去三年間、租税教室だけでなく、税金に関して毎年何らかの形で触れ、学習してきている。そのためか、感想も租税に関しての知識もあり、これからも税金のことに関して、ニュースなど見て考えていきたいと考える生徒も多い。

IV 研究の実際 (2年目の取組)

1 租税教室



令和4年 6月22日(水)
対 象: 3年生14人
講 師:出水税務署
大浦 大作

租税教室学習内容: 税金はなぜ必要なのか? 税金の集め方
税務署の仕事 財政の現状と課題 等

1 令和4年度 3年生 租税教室前のアンケート R4.6.22(水)調査3年生: 14人

1 あなたは、税について興味・関心はありますか。

ある 1 少しはある 4 あまりない 8 全くない 1

2 あなたは、税について家庭で話をしたことがありますか。

ある 1 少しはある 7 あまりない 4 全くない 2

3 あなたは税に関するニュースに注目しますか。

する 2 少しする 5 あまりしない 7 全くしない 0

4 あなたは、税を納めることについてどのように思いますか。

当然おさめるべき 7 仕方ないが納めるべき 6 納める必要はない 0

納めても納めなくてもいいのでは 0 分からない 1

5 税金が役に立っていると感じたことはありますか。

ある 8 少しはある 4 あまりない 2 全くない 0

それはどんな時ですか?

いろいろ。わからない。信号を渡るとき、お金を払わなくていい。リサイクルなどする。
物を買う時。街に街灯や信号があること。警察がすぐ来てくれること。病院に行った時。
道路がきれいだったり、病院代が安い。教科書無料。病院・救急、公園など利用する時。

6 あなたは税について学ぶ必要はあると思いますか。

思う 3 少しは思う 11 あまり思わない 0 全く思わない 0

2 租税学習を終えて、どのような感想をもちましたか？

1 税に関して興味や関心をもつことができましたか。



11人 2人

1人



興味を
もてた

まあまあ
もてた

もてなかった

2 税の本質を理解することができましたか。

11人 1人 1人 1人



よく理解できた

まあまあ理解できた

理解できなかった

3 学習してよかったことや役に立つことはなんですか。

- ・所得税など、大人になってから納める税についても知ることができた。
- ・税について興味を持つことができた。 ・税について知ることができた。
- ・税は自分たちのために必要だと知った。 ・たくさんの税があることを知った。
- ・所得によって納める税が違うことに驚いた。 ・海外の救急事業についての話
- ・収入と所得の違いが分かった。 ・どのような税があるのかわかった。
- ・なんのために税はあるのかを知ることができたので、税を払うことに抵抗がなくなった。
- ・税の種類やスペシャリストになるための方法。
- ・大人になってから自分が納めなければいけない税金を知ることができた。
- ・税金を払うメリットを知ることができた。 ・将来たくさん稼いだ方がいい。

4 租税学習を終えて、考えたことや感想を書きましょう。

- ・税金についてとても詳しく知ることができた。大人になってからは、いろいろな税金があるので払っていきいたい。
- ・今回は、数年ぶりの租税教室でとても楽しかったです。教えて頂く前は「収入」と「所得」の違いがわからなかったけれども、楽しくわかりやすくイラスト付きで教えて頂いたので違いを理解することができました。
- ・日本の主な税金の種類は約50種類という話を聞いて思ったより多くてびっくりしました。「海外の救急事業について」という紙を見て、日本と違うところが多くて興味深かったです。
- ・税について、外国との違いや所得税の集め方、国の歳入と歳出の内訳などを知ることができました。今後の国の課題なども分かりました。楽しく充実した時間になりました。

- ・税金について知ることができた。
- ・話を聞いて、税にいろいろな種類があり、海外で救急車を呼んで病院に運ばれるまでお金がかかることにびっくりしました。
- ・今回の租税教室で、税が50種類以上あることや所得税の計算の仕方に驚きました。税について分からなかったことが分かったのでとても良かったです。
- ・税金の種類が約50種類あって驚いた。また、所得税について詳しく知ることができた。所得によって払う金額が違うことに驚いた。
- ・今日の授業で、小学校の時には詳しく学習しなかったけれども、今回は所得税について詳しく知ることができた。所得税や税のしくみを知ることができた。大人になったら税金を納めないといけないので、より詳しく知りたいと思った。
- ・税について興味を持つことができた。難しいと思っていたことが意外とそうでもなくてビックリした。日本の今の状況は少しやばいと思った。知らないことがたくさん知ることができて本当に良かった。
- ・税金が公務員の給料になっているくらいのことしか元々知りませんでした。たくさんの方に税金を使っていることに驚きました。これからはしっかり税金のことについて考えていきたいです。
- ・今日は改めて知らないことがたくさんあったけれども説明を聞いて納得しました。
- ・今回の租税教室で、どれだけ税金を納めないといけないのかを知ることができました。あと最後に質問することがないほど分かりやすかったです。

【考察】

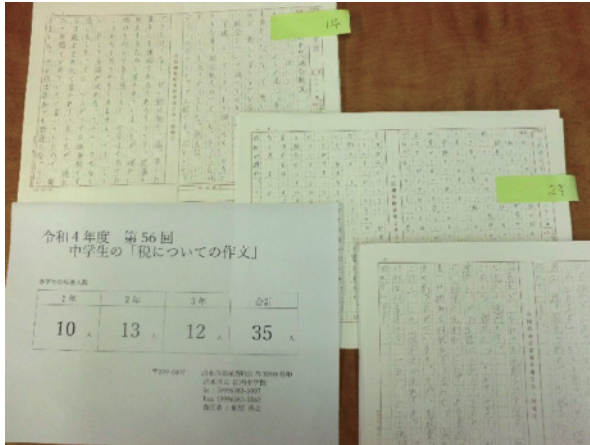
税に関して、租税教室を開催する前は、小学校や1・2年生で学習したにも関わらずほとんどの生徒が興味・関心がなく、家庭でも話題にしたり、関連するニュースを見聞きしたりすることが多くなかった。しかし、税に関して納めないといけないものであるということは認識している。(事前アンケート4 税を納めることについて「当然納めるべき7人、仕方がないが納めるべき6人」)

また、税金について、どのような場面で使われているかについても、自分の身の周りに使用されていることもある程度理解していることがわかった。また、税金について、学ぶ必要性についても、全員が必要であると考えることがわかった。

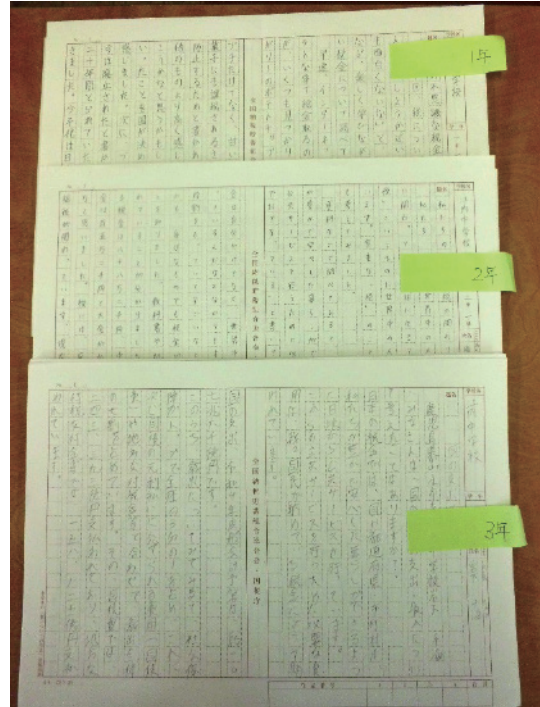
租税教室を開催した後のアンケート等を見れば、おおむね好評である。税務署のスペシャリストが講師であることや順序だててわかりやすく解説することで興味や関心を持たせた結果であると推測される。また、税金の種類や税金が抱える今後、自分たちを取りまく身近な少子高齢化からくる問題など考える良い機会となっていることがわかった。



2 令和4年度 夏休み税に関する作文・ポスター



税に関する作文応募作品



税に関するポスター 応募作品の一例



V 成果と課題

(1) 成果

- ア 租税に関する様々な取組を通して、生徒の租税に関する興味・関心が高まり、税が生活の中で身近に役立っていることを感じている生徒が多くなった。
- イ 小学校で税のことを学び、中学校では社会の授業や、毎年夏休み前に税に関する作文や美術作品について学習することで、税の役割や必要性について正しく理解するとともに、学びへの意欲を高めることができた。
- ウ 夏休みの税に関する作文や美術作品への取組を通して、生徒が身近な生活にある税の役割を認識し、これからの社会に対する考え方も変わってきた。
- エ 各教科や特別活動の中に租税に対する考えを入れることで、公共物や資源を大切にしていこうとする態度を養うことができるようになってきた。

(2) 課題

ア 教育課程への位置づけ

1年目、租税教育について指定を受けて委嘱されたのが5月であった。夏休みに教育課程への位置づけを見直し、2学期から本格的に租税教育を意識した授業の実践に移行していった。年度途中での見直しや先生方との共通理解を図る時間が不十分であったため、実践の中で全教育活動を通して体系的なつながりのある取組と実践を結び付ける難しさがあった。また、租税教育は、特定の教科・特別活動に限定されやすかった。

イ 生徒が主体的に取り組める場の設定

2年間の取組の中で特に考慮したのは、難しく考えず、教育課程の範囲の中で取り組める活動を主にすることであった。税に関する作品や租税教室など毎年行っているが、生徒の学習活動の振り返りを見ると、生徒自らが主体的に考え、深まりが十分であったかという点で課題が残った。

ウ 生徒会や地域とつながった活動

2年間の租税教育では、学校側の主導で行ったが、生徒会での取組や地域を巻き込んでの活動を行い、学校を中心として、地域全体で考えて発展させても良かったのではないかと考えた。

VI おわりに

令和3年度から4年度までの2年間にかけて、鹿児島県租税教育研究委嘱校として本校の実態を踏まえて「租税教育を通して、税に関する興味・関心・理解を深め、将来の納税者として、社会に貢献する生徒を育成するにはどうすればよいか。」を研究主題に掲げ、研究・実践に取り組んできた。税に関しては、小学校からの取組もあり一応理解はしているようであるが、今後の社会の状況も考え、自分がどのように社会に貢献すべきかというところまではまだ物足りなさを感じた。これからの時代を生きていく本校生徒が、今回の租税教育によって自ら考えて積極的に社会の一員として参画し、お互い思いやりをもって助け合って生きていく社会づくりを考えるきっかけにしてもらいたいと思う。

今回、このような機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、出水税務署、その他関係機関の方々には、多大なるご指導やご協力をいただきました。心からお礼を申し上げます。

